

The 18th International Conference on Composite materials

出張報告書

作成日：2011/09/12

文責：同志社大学大学院

工学研究科 機械工学専攻

構造工学研究室 M1 小池 絢子

学会詳細

学会名：The 18th International Conference on Composite materials

開催時期：Aug. 21-26, 2011

開催場所：Jeju, Korea

研究題目：Effect of needle punching on strength of stampable sandwich sheet fabricated with bamboo fiber and recycled carbon fiber mat

講演番号：W5-5

発表者：Junko Koike

連名者：Kazuya Okubo, Toru Fujii

発表形式：Oral (20 minutes)

学会 HP：<http://www.iccm18.org/>

私は2011年8月21日-26日に韓国・済州島にて開催された「The 18th International Conference on Composite Materials (ICCM18)」に参加しました。多くの大学の教授及び学生の方々の研究発表を聴講すると共に、竹繊維とリサイクルカーボン繊維を用いたサンドイッチシートの曲げ強度に対するニードルパンチングの効果について発表しました。少々緊張しましたが、丁寧に発表することができたと思います。しかし質疑応答では、質問者の話す英語のスピードが速く、かつ私の英語力不足のために、要点を聞き取ることができず、適切に対応することができませんでした。後ほど同席して頂いていた大窪先生より、「マットの破壊の起点はどこなのか」「なぜ、竹繊維とカーボン繊維を使用しているのに曲げ強度がそんなに低いのか」「不織布を作成する際、カード機を通した後の竹繊維の分散の度合いを測定したのか」という質問であったと教えて頂きました。

6日間の会期中に、私は天然繊維を用いた複合材料や、サンドイッチ構造についての講演を聴講致しました。そして、多くの学生や教授の方々と意見を交わす機会を得ることができました。その中で、私は自分の持っている知識の量の少なさを痛感しました。

このような機会を与えて頂いた当、藤井大窪研究室の皆様へ深く感謝致します。そして今後の研究活動を行う中で、ぜひこの経験を生かしたいと思っております。

以下、写真に続く

